

11. 北アフリカ

北アフリカの日本語教育の状況

北アフリカ全体の機関数は33機関（前回（2018年度）調査比8.3%減）、教師数は190人（同29.3%増）、学習者数は4,580人（同78.3%増）となっており、教師数と学習者数は前回調査に続いて増加している。なお、今回調査ではスーダンの日本語教育の実施が確認できなかった。

機関数はエジプトが14機関で最も多く、次いでモロッコ13機関、アルジェリア4機関、チュニジア2機関となっている。教師数はエジプトが147人で地域の77.4%を占め、次いでモロッコが31人となっている。学習者数も同様にエジプトが3,514人で地域の76.7%を占め、モロッコ626人、アルジェリア270人と続く。

前回調査からの増減を国ごとにみると、機関数はアルジェリアとモロッコで増加、その他の3か国では減少している。教師数と学習者数はアルジェリア、エジプト、モロッコで増加、その他の2か国では減少とな

っている。

学習者数の教育段階ごとの割合は、中等教育1.1%、高等教育72.0%、学校教育以外26.9%で、前回調査と比べて高等教育の割合が21.6ポイント増加しており、大学等を中心に日本語教育が実施されている傾向がより強くなっている。なお前回調査同様、初等教育では日本語教育の実施は確認されていない。

地域全体のオンライン授業実施率は60.6%と全世界の実施率（63.1%）と比べて若干低く、最も実施率の高いモロッコが69.2%、次いでエジプトが64.3%、その他の2か国では50%以下となっている。

日本語学習の目的をみると、前回調査同様「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」（97.0%）の割合が最も高く、「自国内での現在の仕事・将来の就職」（93.9%）、「歴史・文学・芸術等への関心」（90.9%）も9割を超えている。

表2-11-1 北アフリカにおける機関数・教師数・学習者数

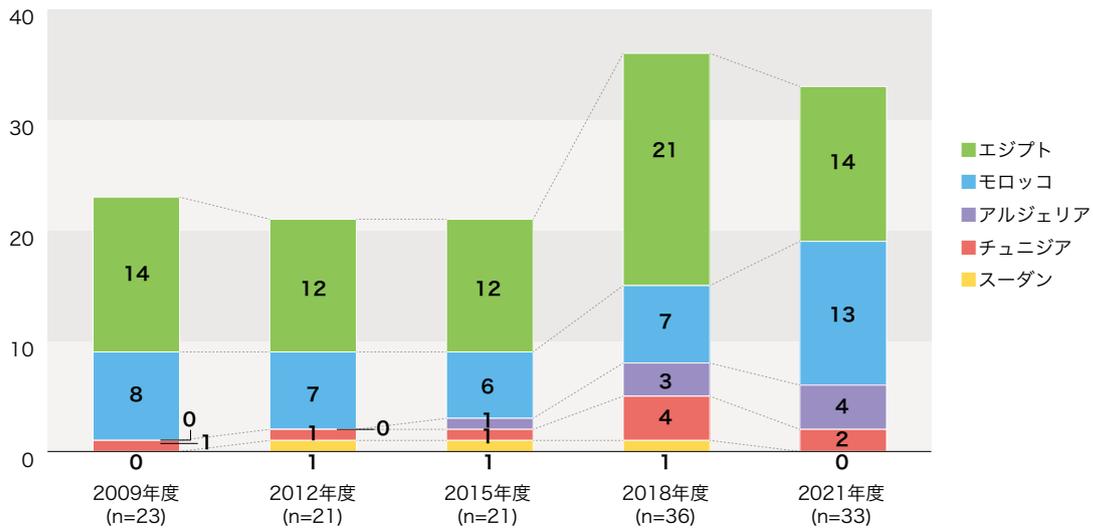
（2021年度の学習者数順）

国・地域	2021年度								人口 (人)	2018年度		
	機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)	10万人あたりの学習者 (人)	教育段階の構成(学習者)(人)					機関 (機関)	教師 (人)	学習者 (人)
					初等教育	中等教育	高等教育	学校教育以外				
エジプト	14	147	3,514	3.7	0	0	3,026	488	94,798,827	21	120	1,602
モロッコ	13	31	626	1.8	0	50	190	386	33,848,242	7	15	547
アルジェリア	4	8	270	0.8	0	0	80	190	34,452,759	3	5	105
チュニジア	2	4	170	1.5	0	0	0	170	10,982,754	4	6	185
スーダン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	130
北アフリカ全体	33	190	4,580	-	0	50	3,296	1,234	-	36	147	2,569

※人口は国際連合発表のPopulation and Vital Statistics Report (as of 3 June 2022) より引用

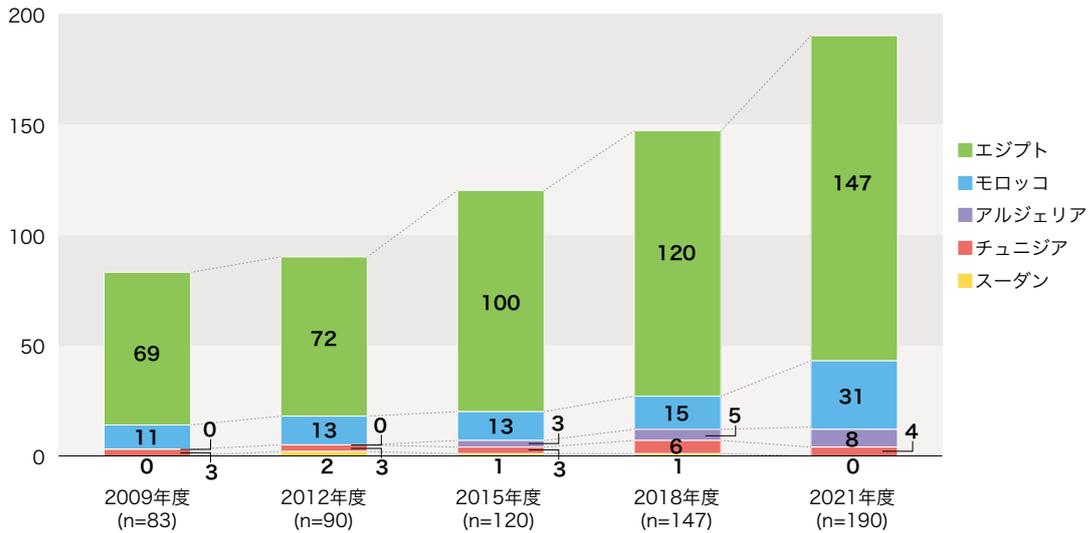
グラフ2-11-1 北アフリカにおける機関数

(機関)



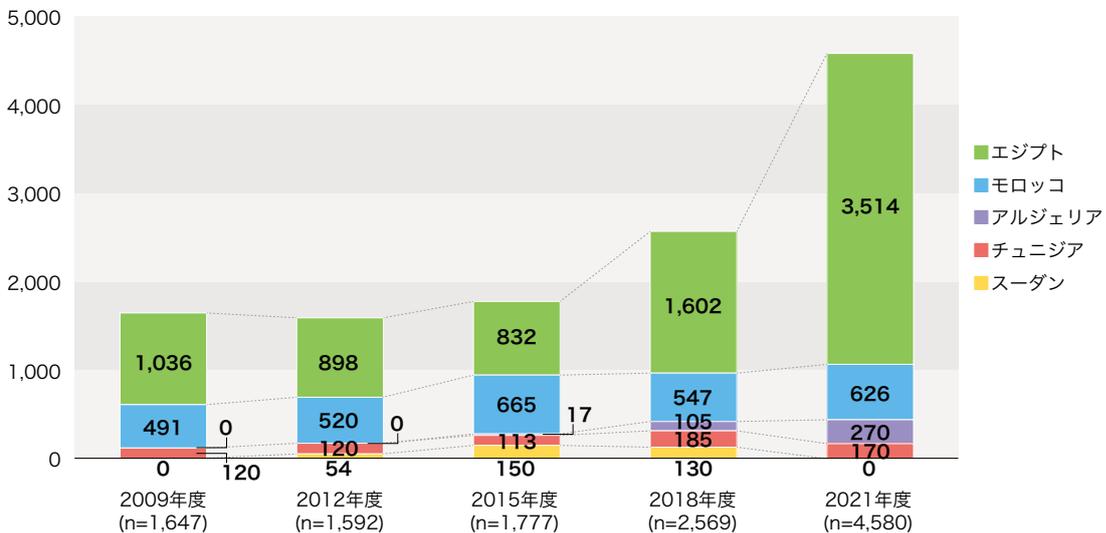
グラフ2-11-2 北アフリカにおける教師数

(人)



グラフ2-11-3 北アフリカにおける学習者数

(人)



グラフ2-11-4 北アフリカにおける教育段階別学習者の割合

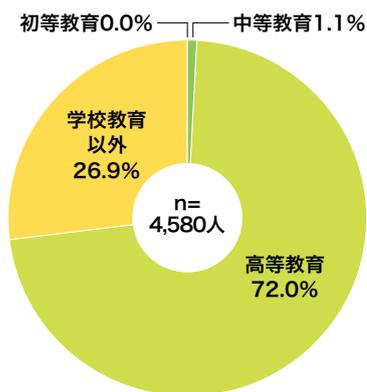
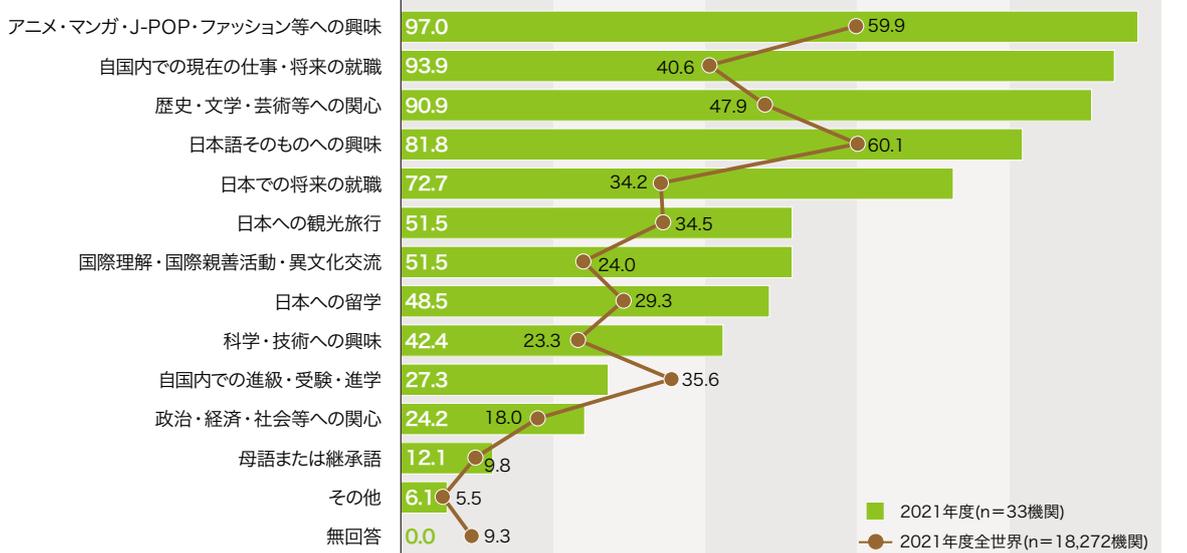


表2-11-2 北アフリカにおけるオンライン授業実施率

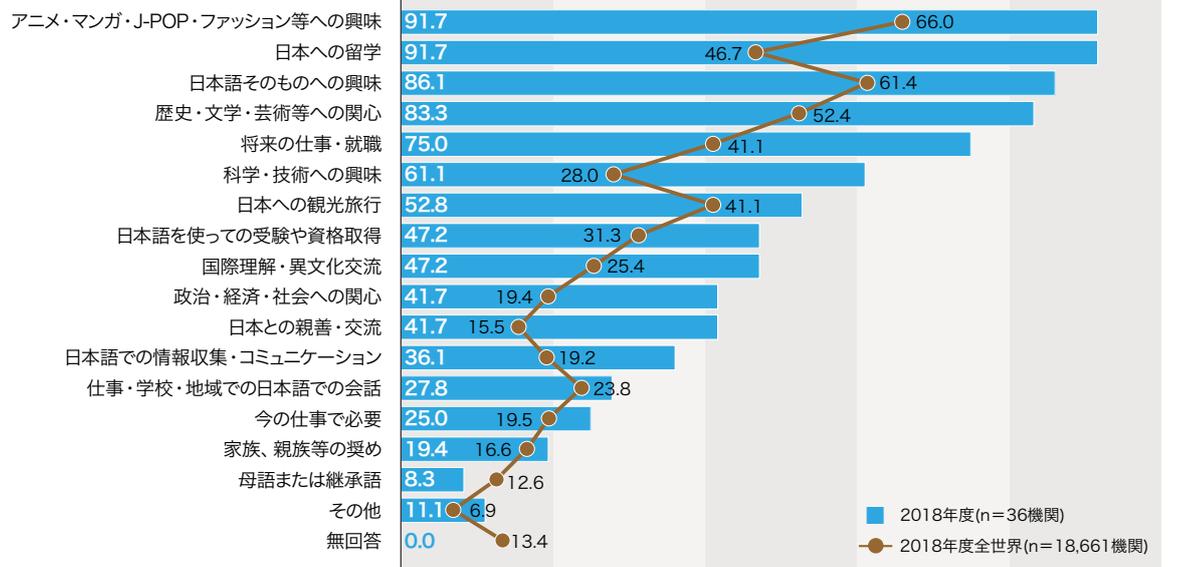
国・地域	国・地域全体機関数	オンライン授業実施	
		(機関)	(%)
エジプト	14	9	64.3
モロッコ	13	9	69.2
アルジェリア	4	1	25.0
チュニジア	2	1	50.0
北アフリカ全体	33	20	60.6

グラフ2-11-5 北アフリカにおける日本語学習の目的

2021年度 0% 20% 40% 60% 80% 100%



2018年度 0% 20% 40% 60% 80% 100%



各国・地域の動向

【エジプト】

北アフリカで最も日本語教育の規模が大きいエジプトでは、中等教育においてSTEM校（科学・技術・工学・数学に重点を置いた教育機関）5校が日本語教育を中止したことなどにより機関数は減少したものの、教師数は前回調査比で22.5%の増加、学習者数は119.4%の増加となっている。この学習者数の増加は、エジプト日本科学技術大学（E-JUST）において2017年9月に工学部と国際ビジネス・人文学部に学士課程が設置され、日本語が必修科目となったことに加え、近年学生数も大幅に増加したことによるもので、この効果によって高等教育における学習者数は972人から3,026人と大幅に増加している。

日本語学習の目的・理由について、「自国内での現

在の仕事・将来の就職」が、前回調査時上位であった「日本への留学」「アニメ・マンガ・J-POP・ファッション等への興味」「日本語そのものへの興味」等を押さえて最多回答となっており、自国内での仕事、就職を意識しての日本語学習が広がっていることは注目に値する。

【その他の国・地域】

スーダンでは、国内唯一の調査対象機関であったハルツーム大学が2019年以降JICA海外協力隊員の不在等のため日本語教育の提供を正式に行っておらず、また調査期間にストライキを実施していたことから、今回調査においては日本語教育の実施が確認できなかった。